



8. 洪水と復興（弥生人の足あと）

1) ムラは、時の大洪水に襲われました。

水田を襲った分厚い土砂は洪水の激しさを物語ります。

2) 被害を受けた人々は、埋まった水田の上に方形周溝墓を作り、更に低い場所へ水田を造り直しました。

3) 環濠も更に堀りなおし、災害にもくじけず、ムラはさらなる拡大と発展を遂げていきました。

4) 弥生人の生々しい動きの跡も残る。水田を覆う砂れき層の最下部、細かい砂が堆積する地層で見つかった長さ 22.0 センチ、幅 12.5 センチの足跡は、足の指を広げ、土踏まらずも鮮明。「氾濫で泥に覆われた田んぼを心配し、様子を見にきたのだろう」と推測される。

弥生文化博物館の春の田の作業風景

農作業は力を合わせての協働作業でした。

